

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2873100594		
法人名	社会福祉法人 友朋会		
事業所名	グループホーム 清和苑		
所在地	川西市清和台東2丁目4-32 (電話) 072-799-6400		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年5月30日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 5人, 非常勤 15人, 常勤換算	13.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり(1ヶ月当たり) 40,000 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 5月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 0 名	女性 17 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89.7 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千里丘中央病院
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の他のサービス事業所が同じ敷地内にあり、共同での行事や防災非難訓練また訪問看護ステーションの利用等法人の持つ多様性が活かされている。共用空間や居室も広く利用者が居心地よく暮らせるように、なじみの家具、置物、飾りつけ等で工夫している。近くには公園や花畑、大型スーパー商店等があり利用者は日常の散歩や買い物をたのしんでいる。また、ホームが地域住民の一員として共に暮らすため、自治会への加入の他、地域活動に積極的に参加している。今後は、運営推進会議においての協議を重ねていき、川西市との連携を強めながら、サービスの質の向上に取り組むことが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 前回の評価後、改善計画シートを全職員で話し合っって作成し改善に向けて取り組んでいる。前回は個人記録の一元化、脱水による身体不調の予防策等々の課題があった。個人記録についてはケースファイルの整備を行い、また脱水予防のために各人の湯のみ等でできるだけ正確に水分摂取量を把握している。介護保険制度の改正を機にホームの理念の見直しを行った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 各ユニットごとにリーダーが中心となり全職員が参画して自己評価に取り組んだ。その結果を管理者、ホーム長、職員で話し合い、今まで気付かなかった事に気付き、改善点が明確になりその改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 運営推進会議には地域の代表として、自治会、民生委員に参加してもらい初回は意見交換と見学等でホームの理解に努めた。今後、時には消防や警察の人への参加呼びかけや、川西市にも会議への参加を根気強く働きかけつつ、評価の結果をふまえ改善課題と取り組み方等について意見を出してもらいサービスの向上に取り組むことが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 家族会の開催やホーム便りの発行回数を増やす等家族への報告の機会や、家族の訪問時には雑談の中から苦情等が気軽にしやすい雰囲気づくりを心がけ、意見を言ってもらいやすい機会作りに取り組んでいる。また、第三者評価時の家族アンケートは貴重な意見として受け止め全職員で話し合っって改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 自治会に加入し清掃活動、文化祭等に利用者と共に参加している。また、地域コミュニティの集いやお祭りなど地域の行事にも参加し、トライやるウィークでの中学生の実習受け入れ、幼稚園児や小学生との交流にも取り組んでいる。法人事業所の中でもグループホームが率先して地域との交流に取り組んでいる。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の介護保険法の改正を機に理念を見直し、家庭的な環境のもと、地域に根ざした生活の継続を支援するという理念をホーム独自の理念として全職員で話し合いつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が日々理念を意識し共有するよう玄関及び各ユニットの目に付きやすい所に掲示し会議時実践について話し合っている。また、利用者と接する場面では、声かけの方法の工夫など理念の実践に向けて取り組んでいる。パートの職員とも会議の時や利用者と接する時に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し清掃活動、文化祭等に利用者と共に参加している。また、地域コミュニティの集いやお祭りなど地域の行事にも参加し、トライやるウィークでの中学生の実習受け入れ、幼稚園児や小学生との交流にも取り組んでいる。法人事業所の中でもグループホームが率先して地域との交流に取り組んでいる。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価をもとに改善計画シートを作成し全職員でできることから着実に改善に向け取り組んでいる。また、各ユニットごとにリーダーが中心となり全職員が参画して自己評価に取り組んだ。その結果を管理者、ホーム長、職員で話し合い、今まで気付かなかった事に気づき、改善点が明確になりその改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の代表として、自治会や民生委員に参加を呼びかけ、特に自治会には会議の意義役割を納得してもらいメンバーに加わってもらった。初回の会議では、参加者それぞれの立場で意見交換、見学等でホームの理解を深めてもらった。</p>		<p>自己評価、第三者評価の結果をふまえ、改善課題、ホームの取り組みの現状と今後の取り組み方などを話し合うことが期待される。今後、市の協力体制にもよるが会議の頻度を増やしていき、時には、消防や警察の人にも参加してもらう等、それぞれの立場での意見や助言をもらいホームの理解を深めてもらってはどうか。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年4回法人の「ゆうゆう通信」を市の担当窓口へ送っているが、市からの情報提供も少なく市との連携は十分とはいえない。</p>		<p>運営推進会議への出席や議事録の送付、研修会での講師の派遣依頼、市内グループホームのネットワーク作りの提案等々ホーム側からの積極的な働きかけが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人の「ゆうゆう通信」とホームの「ホームだより」それぞれ年3～4回家族に送り、日々の暮らしや行事等の報告をしている。また、家族の訪問時での声かけや家族からの手紙、家族への電話等で家族が知りたいことを把握し、その都度報告している。健康状態が変わった時はすぐに連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回家族会を開いて意見を聞いている。また家族の訪問時には雑談の中から苦情等が気軽にしやすい雰囲気づくりを心がけている。第三者評価時の家族アンケートは貴重な意見として受け止め全職員で話し合って改善に取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員側から見れば異動は新鮮な目で見れるという面もあるので、ユニット間、ときには法人内の異動は最小限行っているが、利用者へのダメージを少なくするために、職員3名で利用者3名の担当制としている。職員の変更がある場合は家族にあいさつし、引継ぎ時には十分時間をかけ、スムーズに移行できるよう取り組んでいる。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任の職員には主任が講師役となり、現場研修、接遇研修等を行い、自己評価の実施、面談を通じて職員を育てる取り組みを行っている。また、現任の職員には行きたい研修には積極的に受けさせるように時間の配慮を行い、職員は終了後報告書を作成し会議で研修内容を共有している。パート職員にも正職員が必ず一人入るローテーションを組み、実技面でも現場で助言できる体制を作っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国組織のグループホーム連絡会に加入し、研修を通じて職員の資質向上に取り組んでいる。しかし、市内のグループホームとの交流は殆ど行っていない。		さらに市内のグループホームとの見学や交流の機会を作るなど、ネットワークづくり等への主体的な取り組みが期待される。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には家族へ本人に納得してもらうようお願いし、その後見学してもらい、本人がホームに馴染めるか相談している。また、本人との面談時にホームで不安が強く出そうな方には、家族に2～3日宿泊をお願いして本人、家族が安心して入居できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の生活歴や特技などの情報をアセスメント時や日々のふれあいの中で把握し、今まで主婦をしていた利用者からは、食事、洗濯などの場面で教えてもらっている。また、職員が利用者から励ましてもらったりする事もあり「共に生活する人」という関係を築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や趣味をフェースシートから、日々の暮らしの中でのつぶやき（新聞の広告を見ておられるときなど）に耳をそばだて、また小さな車を利用しての外出時の対話などから一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意志の疎通が難しい利用者ではその時々表情の変化を良く観察（不安が強くてている時など）し、その理由を職員間で話し合い、利用者が望んでいる事なのか望んでいない事なのか検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は計画作成担当者がカンファレンス等での職員の意見を取り入れながら作成している。しかし把握した本人や家族からバックグラウンドについての情報を積み重ね、意向や希望を十分反映された介護計画の作成にはいたっていない。</p>		<p>本人、家族、また、かかりつけ医を含めた人達とよく話し合い、本人家族の希望、意向またチームの人達の利用者との日々のかかわりの中での気づきを計画の中に活かすことが期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書は概ね1年ごとに書き換えられており、月ごとの計画内容はケア記録に記載されている。しかし、月ごとの内容は少なくとも6ヶ月間は同じで月ごとに見直した様子はいかがえない。</p>		<p>本人、家族の直近の希望、意向を把握し、チームの人達の気づきを反映させながら、また、新たな要望や変化が見られない場合でも、月に1回程度実情に即した或いは予防的に対応していくための検討が望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制として、同じ敷地内の訪問看護により早期にホームで医療処置を受けてもらっている。また家族が通院の付き添いができないときや車椅子での通院対応が必要な時など、本人や家族の状況や希望に沿って柔軟に対応している。ショートステイはスペースの関係で、デイサービスは帰る人がいる一方で帰れない人（ホーム利用者）がいるので混乱を避けるため実施していない。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が主治医となっている場合が多いが、ホーム利用前からのなじみの医師に受診している方もいる。協力病院の医師とはいつでも気軽に相談できる関係を築いている。また、通院介助の方法と受診結果の報告については、入居時にきっちり話し合っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	19年4月に全ての利用者にホームの重度化対応、終末期ケア対応指針を説明し、本人、家族の意向を確認し合って同意書を作成している。今後入居があれば、意向を確認しながら同意書を作成する。現利用者の状況に変化があれば家族、医師、看護師等を交えて話し合い全員で方針を共有していく。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	夜勤者との引継ぎは、排泄状況が主になるので、利用者がいる前ではイニシャルで利用者を表現することを心がけ、居室に入る時は必ず利用者の了解を得ている。また異性の入浴介助を嫌がる人には同性介助で対応し、ホームだより等の写真も事前に了解をもらっている。プライバシーの確保徹底について会議、ミーティングで確認しあっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きるのが遅い人や、食事に時間がかかる人には利用者のペースに合わせ、時にはおやつ等で補っている。また入浴や排泄についても基本的な流れは有るものの、時間を固定せず利用者が一日を楽しく過ごせるよう取り組んでいる。また、ホーム長は勤務ローテーションに入らず職員が利用者に合わせて支援が行える仕組みづくりをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回(昼、夕各1回)クッキング日を設け、メニューは利用者と相談しながら、買い物、調理、食事、下膳を職員と共に行っている。クッキング日は全ての職員が利用者と同じ食事を一緒にし、楽しく食事ができる雰囲気づくりも大切にしている。クッキング日のメニューが嫌いな利用者には、利用者の好みを大切にしながら別メニューで食事が楽しめるよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日間隔で、時間もある程度決まっているが、その時々を利用者の希望を大切にしたい入浴ができるようにしている。また、入浴することを嫌がる方には声かけを工夫したり、別の職員が対応するなど、利用者の意向に沿った支援に取り組んでいる。		体が不自由で浴槽に入れられないため、シャワー浴が続く時などは特養の特殊浴槽の利用などを考えているので利用が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握や、日々のかかわりの中から、一人ひとりの役割、楽しみごとを見出しエレクトーンやキーボードの演奏、フラダンス、草花の手入れ、絵画教室へ出かける等々、これまでの生活や特技を活かした場面を作り出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日その時の気分、希望、状態等に応じて、近くの公園や花畑への散歩、特養の食堂やなじみの喫茶店へ出かけてコーヒーを楽しむなど外出を楽しんでもらうよう心がけている。歩行が困難な利用者も職員と一緒に車で、お菓子屋や喫茶店に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵が付いているが、職員が掛けることは無い。玄関は各ユニットごと計2ヶ所あり、「かぜ」エットの玄関は日中施錠せず、利用者が外出するを察知した時は、止めにさりげなく付き添って外出している。「そら」エットの玄関は職員の目の届かない場所にあり、日中も施錠している。		各エットは廊下でつながっているとはいえ、「そら」の利用者の自由な暮らしが保障されているとは言えない状況であるため、全ての職員が鍵を掛けることのデメリットを話し合い、自治会など地域の協力を仰ぎながら「何とかしてあげたい」というホームの思いが実現できることが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回消防署と連携して法人の事業所合同で消火器の使い方等の防災及び避難訓練を実施している。また、夜勤者用マニュアルを別途作成し夜勤者には必ず訓練に参加させるなど夜間の防災には特に配慮している。米、毛布等の非常用食品や備品も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量を把握し、食事にかかる時間をゆっくりしてとったり、お茶ゼリーやスポーツ飲料など好みのものでカロリーや水分が不足しないよう工夫している。また、併設特養の管理栄養士にカロリーや栄養バランス等について専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	たたみの居間には、端午の節句のかざり、使い慣れたサイドボード、掛け軸、また食堂には日頃の暮らしぶりや行事の写真、台所からは野菜を切る包丁の音等生活感や季節感のあるものをうまく活用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の好みのベッドやぬいぐるみ、たんすには着慣れた衣類が持ち込まれ、亡夫の写真や位牌を飾っている人もいる。空間は同じでも、それぞれの利用者のそれぞれの居室となっている。		

 は、重点項目。